



学校だより

(6月号) 令和2年6月1日発行

<http://shibiraki-e.saitama-city.ed.jp/>

【学校の教育目標】

◎ 夢 (ゆめ) に向かって ともに学びあう学校

- ・進んで勉強する子
- ・自分からあいさつのできる子
- ・仲よくたすけあう子
- ・じょうぶな子

《今月の生活目標》・友だちの輪を広げよう

創造的休暇

校長 河井 尚

弥生に始まった休校。卯月、皐月を経て3カ月に及びました。その間、子どもたちはもちろんのこと保護者や地域の皆様におかれましては、不安感や閉塞感、生活における様々な困窮はただならぬものであったと拝察いたします。

先日の緊急事態宣言の解除を受け、ようやく学校が再開されようとしています。登校してくる子どもたちの笑顔と元気な声がとても楽しみです。

さて、しびらきっ子の皆さんは、この休校期間中にどのように過ごし、どんなことを考えたでしょうか。当たり前だと思っていた日々の学校生活や家庭での生活のことでしょうか。健康や衛生の大切さでしょうか。それとも自然界への畏敬の念でしょうか。

「人類は『パンデミック』をどう生き延びたか」という本の著者で歴史作家の島崎晋さんは「学ぶべき点はナイチンゲールとニュートンにもあります」と語ったそうです(スポーツ報知 5/10 配信)。クリミア戦争(1853-56)の戦地の病院で勤務し、「近代看護の母」と呼ばれる英国の看護師フローレンス・ナイチンゲールが指示した感染防止策は以下のとおりです。「清潔な環境の維持」「太陽光の取り込み」「絶え間ない喚起」「密集、低温の回避」。まさに今に通じる至言です。



一方、アイザック・ニュートンは万有引力の法則の発見で有名です。1665年、ケンブリッジ大学で数学を学んでいたとき、ペストの流行があり、ロンドンだけで約7万人が亡くなったそうです。大学は閉鎖され、故郷のウールズープに避難します。当時20代前半だったニュートンは、大学でしなければならなかった雑事・雑用から解放され、自分自身の思索に充てる時間を得ることになります。ニュートンは、大学に戻る1667年までの「創造的休暇」(と、彼は呼んだそうです)期間中に、「万有引力の法則」のほかに微積分法や光の分光的性質といった「3大業績」の前アイデアを着想したとのこと。

全校休校、緊急事態宣言下の生活で悶々とする日々でしたが、将来、2020年を振り返った時、この3カ月が「創造的休暇」であり自分自身の成長につながる機会だった、と言える時期が来ることを期待したいと思います。

今後、学校を平常時の姿に戻すために、感染リスクを低くする方策をとりつつ、段階的に教育活動を行い、少しずつ子どもたちの生活リズムや学習活動を整えてまいります。子どもたちの心身のバランスがとれた生活が送れるよう、保護者・地域の皆様にはこれまで同様、あたたかいご理解とご協力をいただけますようお願いいたします。

最後になります。今回のコロナ禍で、悲しいかな人の心を傷つける誹謗中傷が多く報告され、社会問題となりました。こんな時期こそ、お互いに思いやり、感謝の気持ちを交わし合いたいものです。